

決算説明資料

2017年3月期

JASDAQ

Listed Company 4241

2017年5月
株式会社アテクト

2017年3月期業績総括



Listed Company 4241

業績の要約

(単位:百万円)

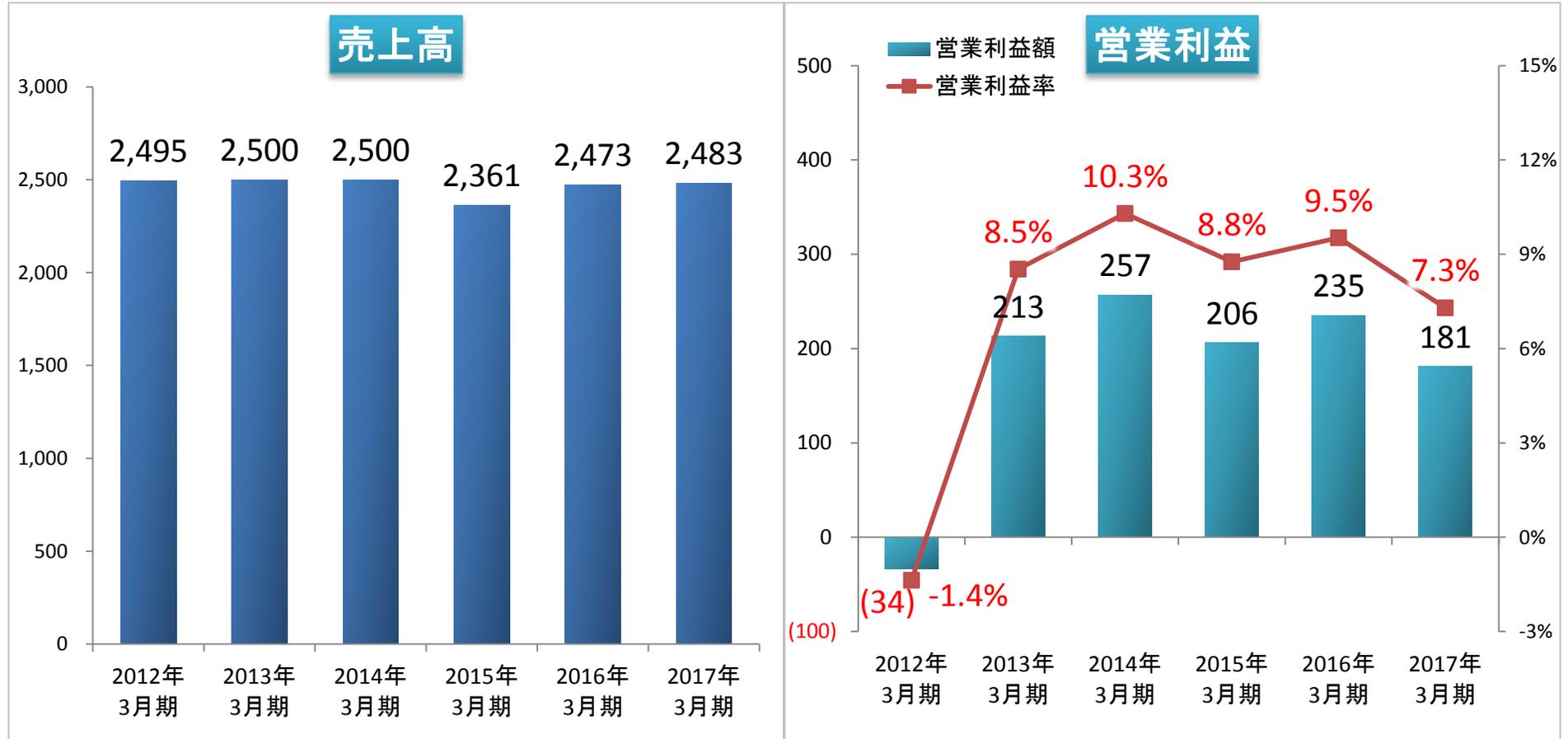
	2016年3月期	2017年3月期	前年度比 (%)
売上高	2,473	2,483	100.4%
営業利益	235 9.5%	181 7.3%	77.0%
経常利益	140 5.7%	137 5.5%	97.8%
純利益	75	51	67.2%

売上高:0.4%増収・営業利益:23.0%減益、営業利益率7.3%

※工場移転費用26百万円、建物付属設備廃棄損26百万円を特別損失に計上致しました。

売上高・営業利益推移

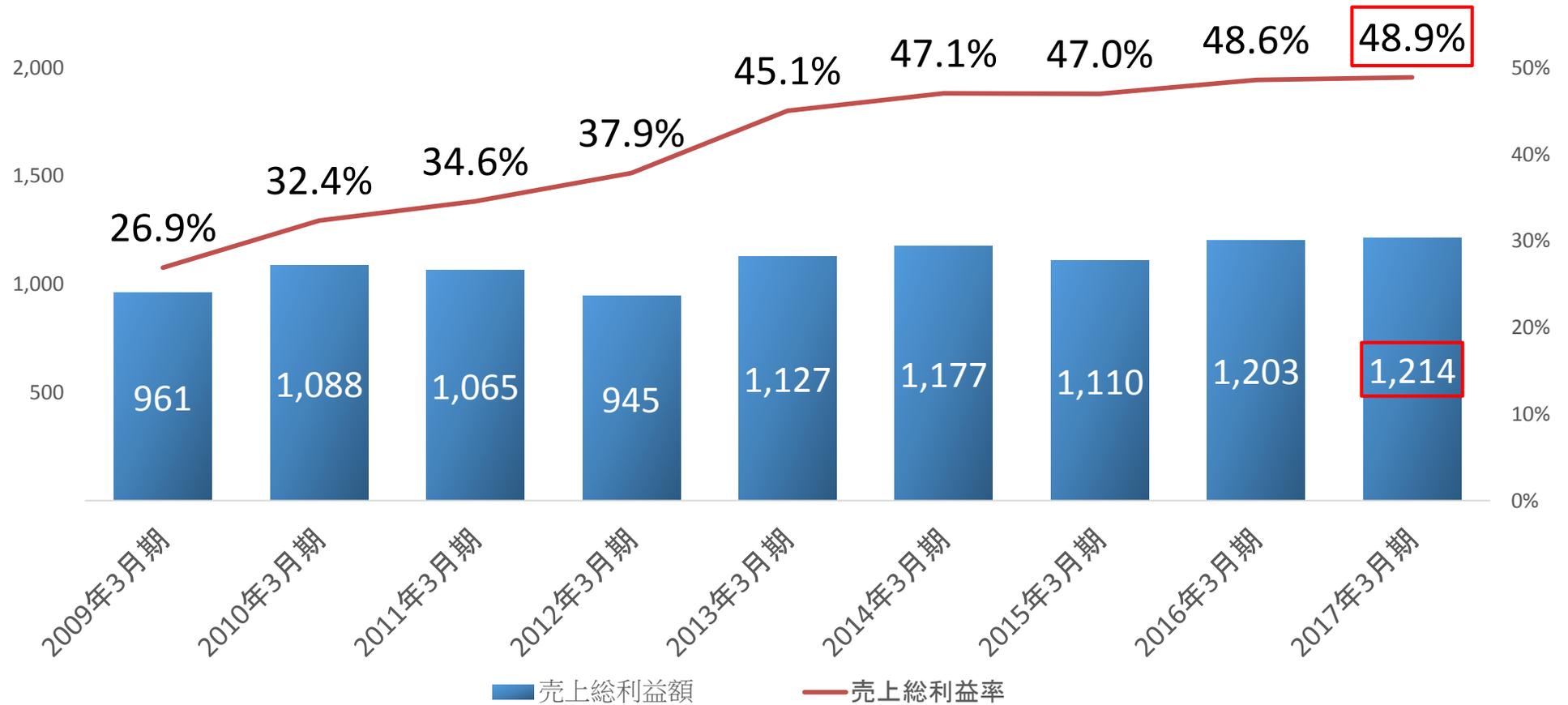
(単位:百万円)



総利益額は過去最高(P.5参照)となりましたが、販管費の増加(P.6参照)により、5期ぶりに営業利益200百万円割れとなりました。

売上総利益推移

(単位:百万円)

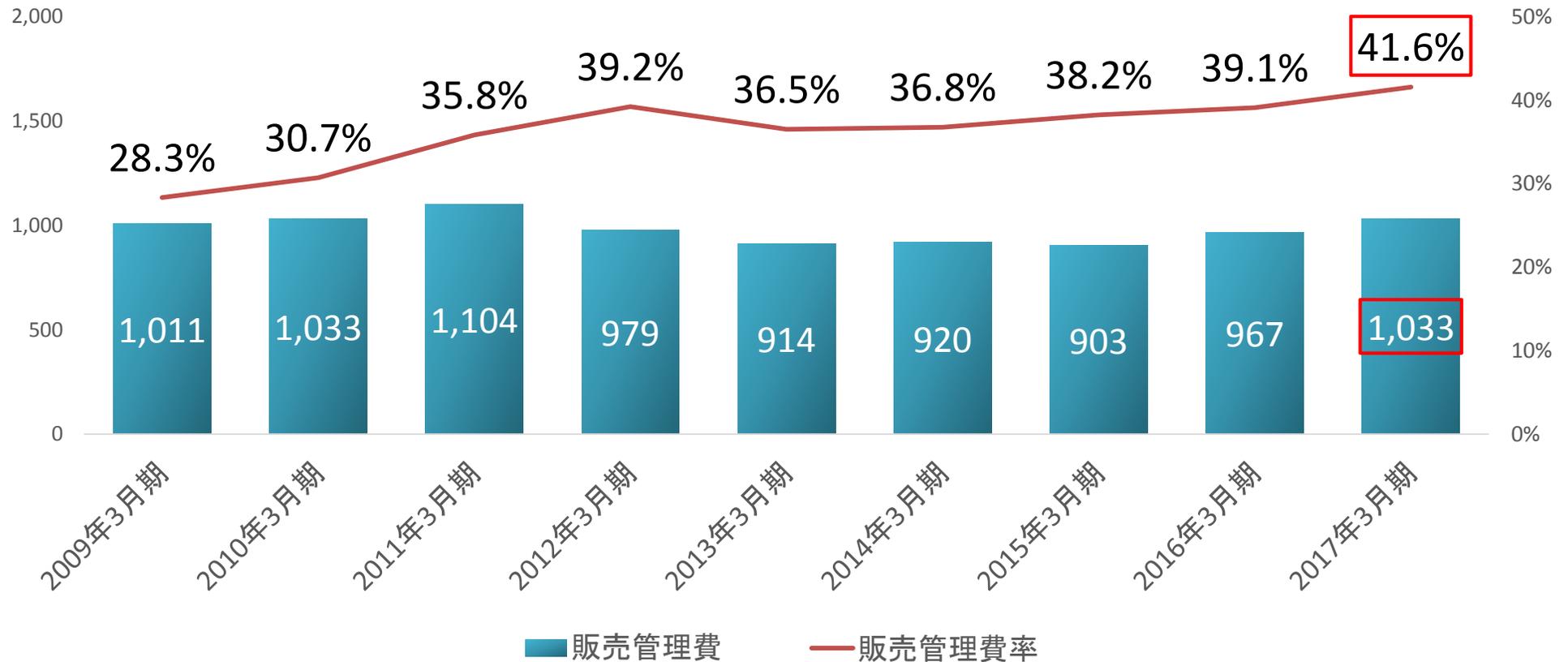


売上総利益額・率ともに過去最高

※2012年以降の生産変革活動により、コスト競争力は格段に向上しております。

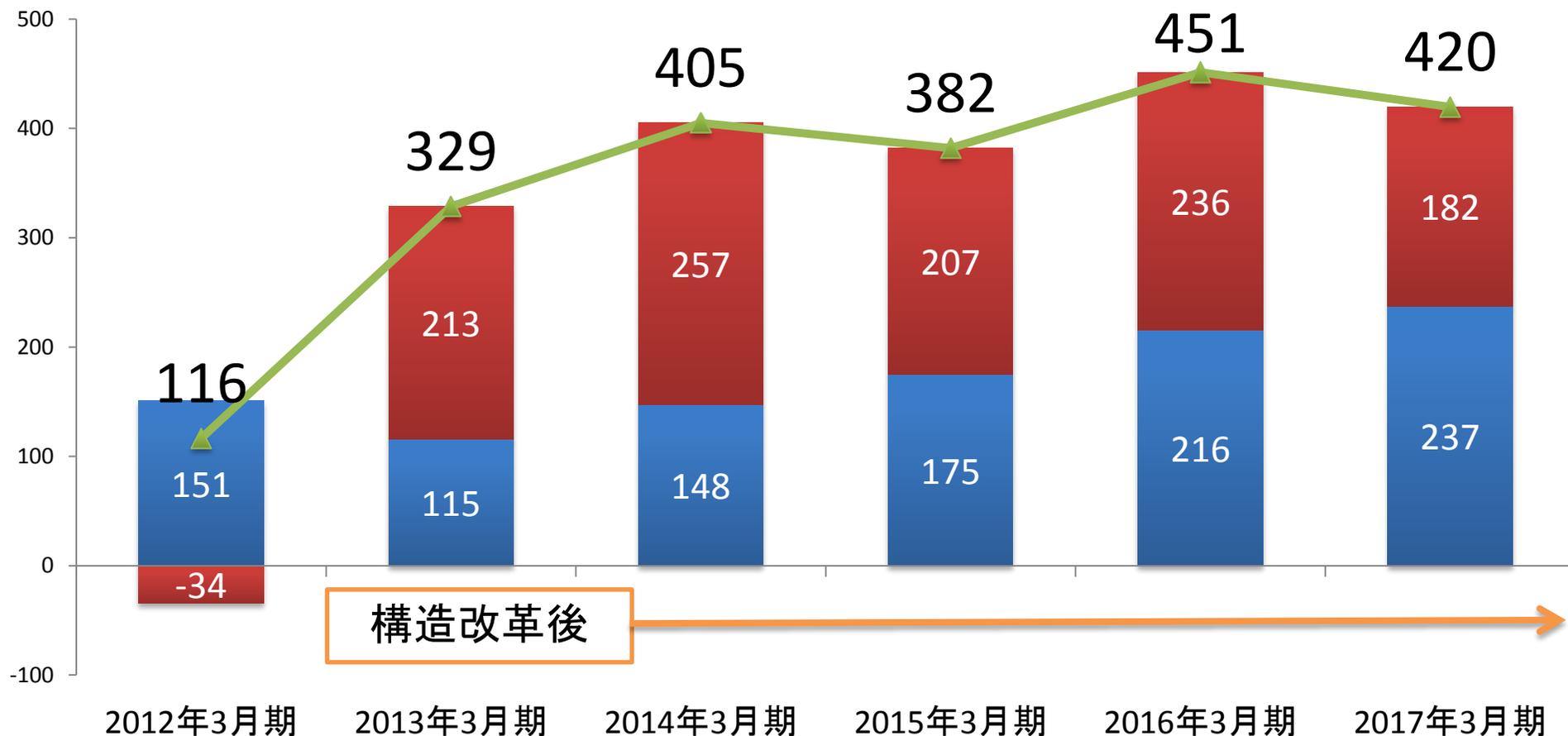
販売管理費推移

(単位:百万円)



構造改革以降7期ぶりに1,000百万円を越える販管費(拡大成長戦略)
新工場移転費用、将来の拡大成長戦略に向けた人材採用・研究開発費の増加によるものです。

企業収益力：EBITDA



(百万円)

■ 減価償却 ■ 営業利益 ▲ EBITDA

構造改革以降の積極的投資により着実にキャッシュ利益は拡大

●売上高

- ・上半期の円高による半導体資材事業の売上高期首計画の未達
 - ・堅調であったPIM事業の材料販売の抑制
- ⇒0.4%増収に留まりました。

●売上総利益額

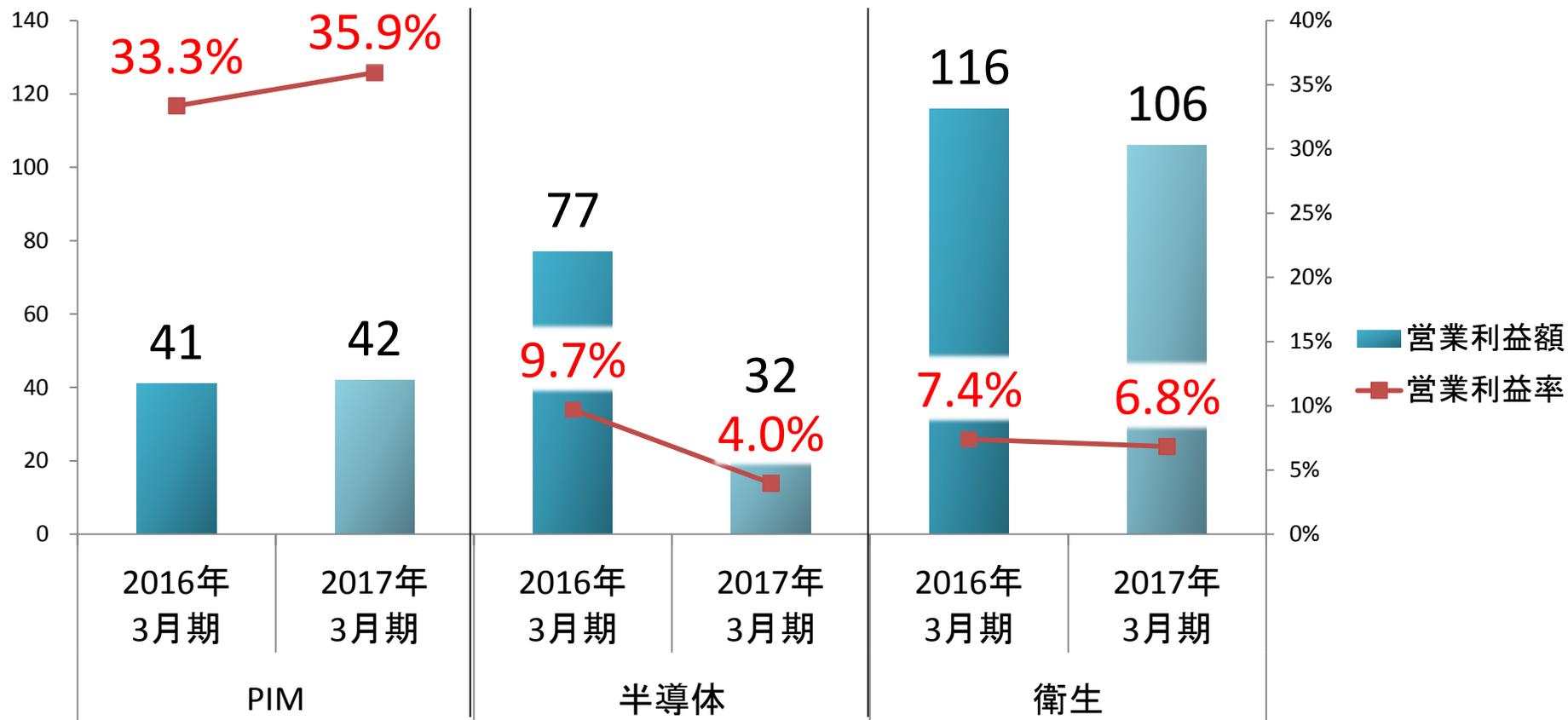
- ・2012年以降の生産変革活動により、円高基調の中でも持続可能な強固なコスト競争力が現場に浸透
- ⇒1,214百万円（前年比0.9%増）、売上総利益率48.9%と過去最高額を更新

●販売管理費

- ・新工場建設
 - ・将来の拡大成長戦略に向けた研究開発費の増加
 - ・即戦力人材の採用等
- ⇒1,033百万円（前年比6.8%増）を計上、構造改革以降7期ぶりの費用増

セグメント別営業利益比較

(単位:百万円)



PIM事業は過去最高益を更新しました。

半導体資材事業については円高と韓国拠点人件費の高騰により利益が減少しました。

PIM

- 材料販売の抑制により初のマイナス成長（前年比94%）となったが営業利益においては過去最高を更新
- 滋賀新本社工場への移管立ち上げすべて完了。
メタル系、セラミックス系専用の6部屋の材料製造室と2016年12月に導入した新設の焼結炉を含め、6基全てが稼働開始
- ディーゼルエンジン用VG(Variable Geometry)ターボの耐熱ステンレス合金(HK30)製ノズルベーンにおいて、寸法・機械強度・高温特性全てをクリアし、海外大手ターボメーカー、国内大手ターボメーカー2社と具体的な数量、価格、量産開始時期(SOP: Start of Production)の交渉に入り、2020年までの短中期の量産に向けた本格的な検討を開始
- ベアリングボール多数個取り新金型・全自動トリミングラインが完成。
最新鋭の設備で商品化を加速

半導体資材

- 上半期の円高の影響により売上高期首計画の未達
- 韓国生産拠点近郊にSAMSUNG社一大生産拠点が進出、2016年12月に実施した従業員定着のための大幅な賃金アップにより利益率減少
- 第3四半期以降4Kテレビの普及率拡大、4Kテレビ対応高品質スペーサテープによるシェア拡大
⇒売上数量は前年比21.6%と大幅に伸長
- 総利益率45.1%を50%台に回復させるべく、滋賀工場の早期安定生産の確立を進め、両拠点での原価低減活動を加速

衛生検査器材

- 培地製造：滋賀工場に建設した最新の無菌クリーンルームに2017年2月に全設備の移管完了⇒生産安定化
- シャーレ製造：最新鋭のラインを増設、日本社工場の全ラインを更なる効率化を目的とした改造、オーバーホールを実施、移管立ち上げ完了
- 滋賀工場に社内ITシステム部門が独自に開発したコンピューターシステムを導入、併せて従来のテレマーケティングのアウトソーシング先にも展開し、架電件数を大幅に引き上げ、売上拡大を目指す

2018年3月期業績見通しについて



Listed Company 4241

2018年3月期業績見通し未開示の理由

PIM事業における自動車用ターボ部品の受注獲得に向け、より具体的な案件を複数抱えており、短中期の量産化に向け、国内外の自動車用ターボメーカー各社様との連携をこれまでに以上に強化しております。

中でも数社、数アイテムのターボ部品においては、量産決定の最終段階にきております。

よってPIM事業の2018年3月期の売上高見込み、また、2018年度以降の量産体制に向けた2018年度3月期に計上する開発費及び投資計画等、新たな事業計画を策定中につき、例年同様の通期業績予想を行うことが困難であるため、売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益いずれも未定とさせて頂いております。

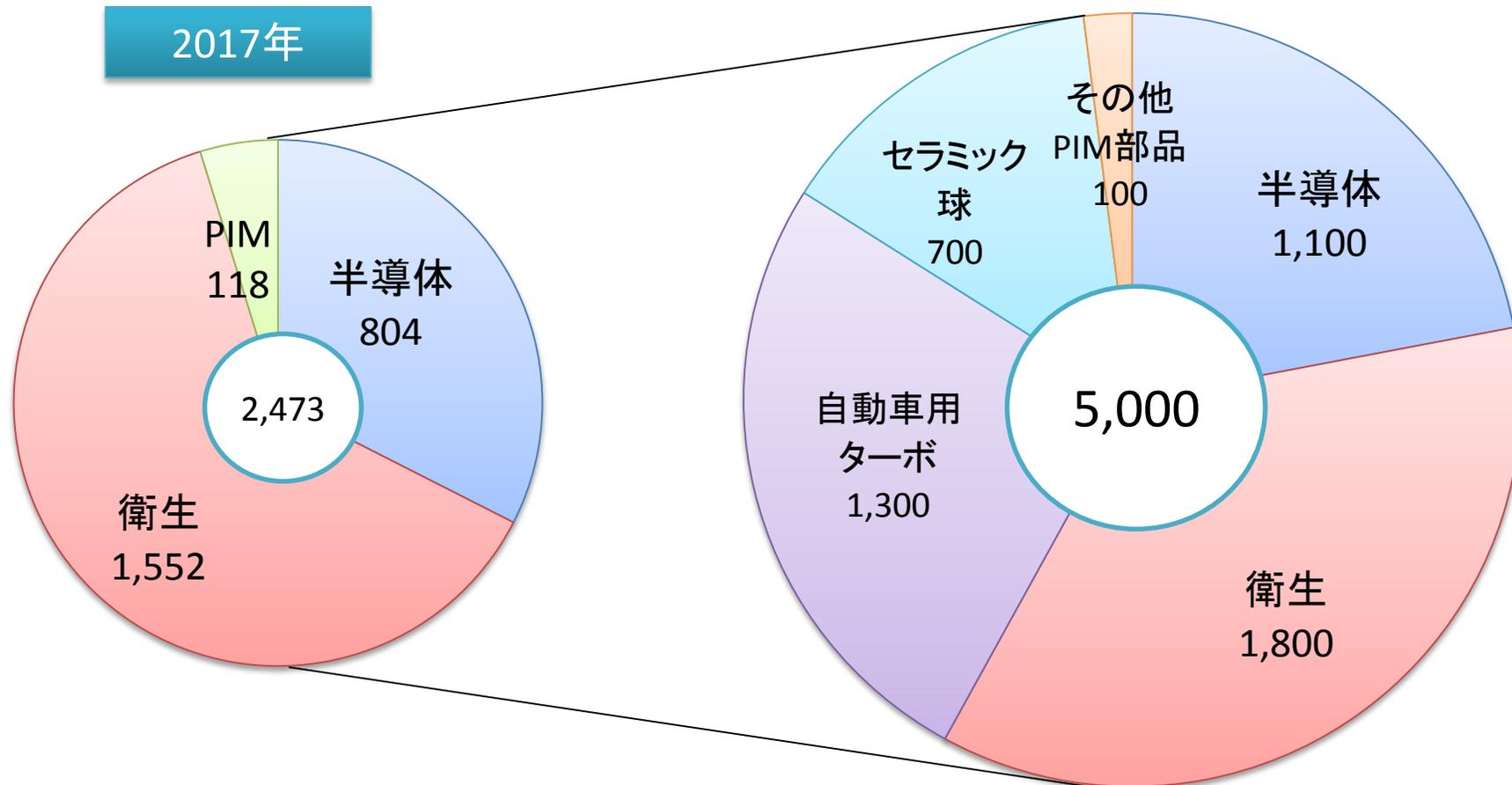
今後、上記内容が明確になり、算定が可能となった時点で速やかに開示致します。

セグメント別売上拡大イメージ

(百万円)

2020年～2021年

2017年

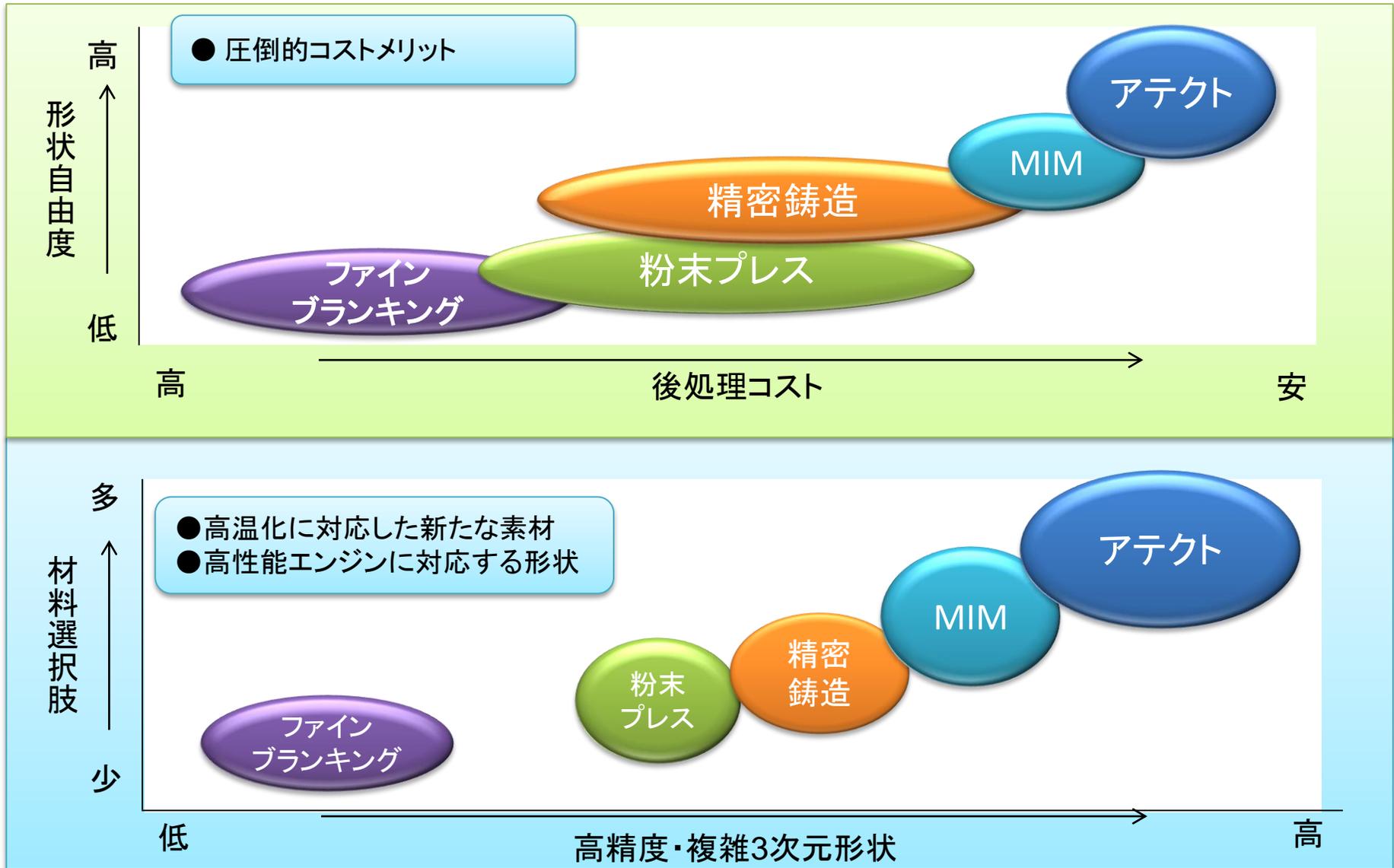


2020年～2021年にグループ連結売上高合計50億円を目指します。

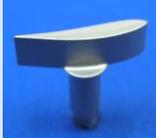
新工場を武器に2020年目標を必達

- PIM: 自動車用ターボ部品・セラミックス球の事業化
 - ・ノズルベーン(HK30)量産技術確立
 - ・セラミックス球量産技術確立、ポア(空泡)レス
 - ・ガソリンVG用新素材(1000°C仕様)ノズルベーン開発・商品化
 - ・高熱伝導率(70~100W)窒化珪素ヒートシンク商品化
- 半導体資材: 売上10億円越え、総利益率50%回復
 - ・4Kテレビ普及に伴う更なるシェア拡大と徹底したコスト低減
- 衛生検査器材: 確実なプラス成長
 - ・架電件数拡大に向けた新たな仕組みづくり→営業体制の強化

ディーゼルターボ用ノズルベーン進捗



ディーゼルトーボ用ノズルベーン進捗

ターボ部品	材質・適合エンジン	製品写真	当社PIM技術の優位性
ノズルベーン VG (Variable Geometry)	耐熱ステンレス合金 (HK30) ディーゼルエンジン用 ~800°C		主流となっているロストワックス(精鑄品)や他社MIM品に対し、 <u>当社PIM工法による量産技術により低コスト・高品質を実現</u>
	ニッケル基超合金 (インコネル713C) または類似特性素材 ガソリンエンジン用 ~1000°C		今後、急速に拡大が予測されるガソリンVG化への対応 <u>当社PIM工法でインコネル713Cでは世界初となる量産化技術の確立を目指す</u>
ウェイトゲートバルブ	ニッケル基超合金 (インコネル713C) ガソリンエンジン用 ~1000°C		HK30(ステンレス)からインコネル713Cへのシフトが加速(=高温化)ロストワックス法で生じる、2次加工(※難削材)によるコストアップを <u>当社PIM工法によるニアネットシェイプ(仕上げ作業を極限まで削減)で解決</u>
タービン動翼	チタンアルミ合金 次世代ターボエンジン用 1000°C以上		1000度以上の耐熱強度、インコネル713Cの半分の重さとなるチタンアルミ合金を開発中、次世代ターボエンジンとして期待

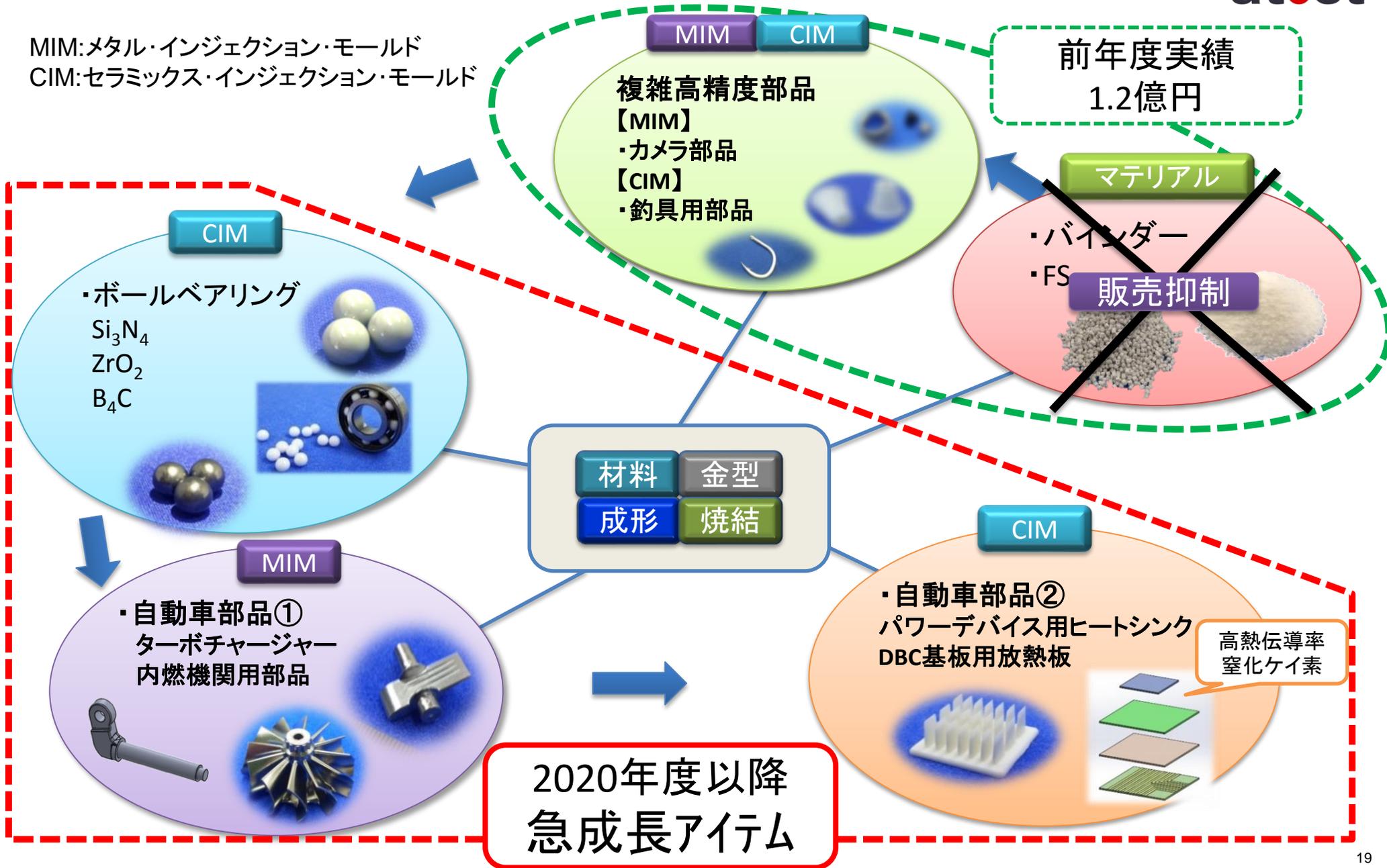
ディーゼルトーボ用ノズルベーンにおいて、下記、顧客設計要求品質基準を全てクリアしました。

- ①寸法精度
- ②機械特性
- ③高温強度(クリープ試験・疲労試験)

今後は、ドライバビリティ向上、更なる小排気量・低燃費、環境改善を目的としたガソリンVG(~1000度)用ターボ部品の開発、商品化を加速させて参ります。

PIM事業拡大サイクル

MIM:メタル・インジェクション・モールド
CIM:セラミックス・インジェクション・モールド



新工場進捗

4月21日に東近江市長をはじめとした多くのご来賓をお迎えして開所式典を挙行致しました



敷地面積約29,000坪（旧本社工場の16倍）、工場面積約5,800坪の新社屋・新工場を滋賀県東近江市に取得。

全生産部門及び本社機能全ての移管を決定し、全事業の営業活動に支障（納期遅延や品質トラブル等）をきたすことなく、わずか11ヶ月という短期間での新社屋・新工場の立ち上げ、全部門の移管を完了致しました。



- PIM焼結炉の移管・設置立ち上げ完了
- シャーレ・培地設備フル生産開始
- 半導体設備についても主力製品の生産を開始

PIMエリア



6部屋の材料製造室と2016年12月に導入した新設の焼結炉を含めた6基全ての移管立ち上げが完了

半導体資材エリア



2017年4月より
エンボススペーサーテープ、
リーダーテープの生産を開始

シャーレエリア



最新鋭ラインの増設、旧本社工場の
全ラインを更なる効率化を目的とした
改造、オーバーホールを実施、
移管立ち上げが完了

培地エリア



2017年2月末よりフル生産を開始
⇒安定生産体制に入る

倉庫エリア



広大な倉庫スペースを活用した効率的な物流システムが完成

免責事項

当資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、当資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。

しかしながら実際には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、当資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社は、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。当資料記載の業績見通しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、転送等をおこなわれぬようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ

株式会社アテクト 事業管理部 IR担当

TEL:0748-20-3400

E-mail:ir@atect.co.jp